

非核の政府を求める石川の会 会報

非核・いしかわ

会報「非核・いしかわ」を携えて

平和市長会議事務局を訪問

六月四日、広島原爆資料館で開かれた「はだしのゲン」四〇周年記念イベントに参加してきました。記念イベントは夕刻からで、午後の時間を利用し平和市長会議事務局を訪ねてきました。同事務局は



2013年原水爆禁止国民平和大行進が6月15日から24日まで県内を行進中。前列右から通し行進者の神田順一、竹田昭彦、末友雅子さん

平和記念公園内の国際会議場三階（広島平和文化センター内）にあります。

広島市役所には国際平和推進部があり一三人の職員が勤務しています。このような名称の担当課があるのは広島市と長崎市だけです。さらに公益財団法人・広島平和文化センターには国際部平和連帯推進課があり、六人の職員が勤務しています。ここが平和市長会議事務局を担当しています。

平和連帯推進課の野坂正紀課長補佐と面談し、非核石川の会が昨年四月に実施した県内自治体アンケートにもとづき、平和市長会議加盟自治体等を取材し、会報を通じて非核・平和行政の推進を働きかけていることを紹介しました。

野坂氏からは平和市長会議の国内加盟自治体は全国で七六・一％になっており、石川県内でも最近四自治体（かほく市、川北町、志賀町、中能登町）が増え、九自治体になったと教えてもらいました。中能登町は今年六月に加盟したとのこと。今年の原水爆禁止平和行進の事前折衝のため、五月半ばに県内自治体を一巡した際に平和市長会議への加盟を要請したことへの反映でしょうか。

平和市長会議は未加盟自治体への加盟促進と、二〇二〇年ビジョン（核兵器廃絶のための緊急行

非核5項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

花鳥風月

アメリカが「対テロ戦争」として、無人機での攻撃をしばしば行っている。いつの間にか、遠隔操作で殺人ができる世の中になってしまった▼科学の進歩はとどまるところを知らず、次世代型として「自律型ロボット」というのが開発されているそうだ▼今の無人機は、リモコン飛行機と原理的には変わらない。人間が操縦し、武器の使用も人間が判断する。人間が操作しなければ動けない▼それに対して「自律型」は、機械が判断して行動する。鉄腕アトムみたいなものか。しかしアトムと違い、戦争するのが目的のロボットである▼戦争をする側としては、兵士の損害を考慮する必要がない。障害年金も遺族年金もいらぬのだから、安上がりで都合がいい▼しかし、そのために国家が戦争をしやすくする可能性があり、自国民を制圧する目的にも使われかねない。また、ロボットが戦場で兵士と民間人を区別できるのか？といった問題点も挙げられている▼こうしたことが課題として提起される世界に生きているということには、慄然とさせられる。（山）

動)」の署名活動を繰り返し呼びかけています。

野坂氏から「非核石川の会のような平和団体による地元自治体への働きかけは大変ありがたく、参考にさせていただきたい」と感謝されました。また今年八月三日から六日まで広島で開催される第八回平和市長会議総会に多くの自治体から参加されるよう協力依頼もありました。

(事務局長 神田順一)

非核の政府を求める石川の会

第二五回総会開かれる

六月二日、近江町交流プラザ集会室で非核の政府を求める石川の会第二五回総会が開かれました。

総会に先立ち、五十嵐正博神戸大学名誉教授・当会代表世話人が「核兵器廃絶 北東アジアと日本の役割」と題して記念講演を行いました(講演要旨は別掲)。

総会では永山孝一常任世話人が議長に選出され、議事の進行に入りました。

核兵器廃絶運動のうねりをつくろう

最初に来賓三人から、「二〇一五年NPT再検討会議に向けて総力を結集し、核兵器廃絶運動のうねりをつくろう」大森森定岡山県原水爆禁止協議会代表理事、「被爆体験を次の世代に伝えることに命ある限り頑張りたい」西本多美子県原爆被災者友の会事務局長、「NPT再検討会議の準備委員会における日本政府の態度は核のない世界をめざす国際社会

への背信行為である。被爆国の政府こそイニシアチブを發揮すべきである」佐藤正幸県議会議員、と連帯の挨拶がありました。

会務報告では神田順一事務局長が次の四つの重点課題を提案しました。

- ① 非核・平和行政の推進のため、自治体への働きかけを重視する
- ② 原発に依存しない社会をめざし、原発ゼロをもとめる運動との連携強化
- ③ 非核・平和の日本実現のため、二〇一三年原水爆禁止世界大会と日本平和大会への代表派遣
- ④ 被爆の実相の普及、被爆者との連帯強化

財政報告は川本浩平事務局次長が提案し、会の活動を支える健全財政確保のため、「会員二五〇人(実増二〇人)と会費納入率の向上」「原水爆禁止世界大会と日本平和大会への代表派遣募金への協力」を強調しました。

「核の傘」依存からの脱却を

討議では「核兵器の使用は国際人道法に違反するという見解について」「国際条約の締結による北東アジア非核地帯の考え方について」「核兵器の全面禁止のため核保有国と『核の傘』に依存する国々での世論と運動が重要だ」などの質疑が活発に行われ、提案議案がすべて承認されました。

「もう少し討議の時間が欲しかった」とのご意見もいただきました。

非核石川の会・総会記念講演(要旨)

核兵器廃絶 北東アジアと日本の役割

代表世話人・五十嵐正博

二〇一〇年間は進展なし

本日のテーマは、「核兵器廃絶 北東アジアと日本の役割」ですが、北東アジアは大変な混乱の中にあり、日本の役割をどのように見たらよいか難しいものがあります。むしろ私は市民の役割を見たいと思っています。

今日は第二五回総会ですが、これまで私は九二年の第四回総会で「非核三原則の法制化をめぐる」、九五年の第七回総会で「核兵器の廃絶を目指して」、南太平洋諸国の運動から、〇二年の第一四回総会で『備え』あれば憂いあり、というお話をさせていただきました。

九二年頃は冷戦が終わって米国の一極支配になると言われていました。八八年の段階で米ソは中距離核戦力全廃条約(INF)が発効しました。約三〇%削減し、九八年までに核弾頭数を米国は一六三六、ソ連は九六五八に削減するという合意です。当時、核弾頭一つ処理する費用は六万ドルと言われていました。日本は米国に追従しました。また当時はプルトニウムの輸送が国際的に問題となっており、プルトニウム積載船舶の領海通過に対して約三〇の国々が反対声明を出しました。第六回国際非核自治体会議では、非核というのは、核兵器に限られるのかどうか一つの論点となりました。この点で

わが国と欧米の非核運動とズレがあることを指摘しました。それはわが国では非核は核兵器廃絶が中心であり、原発についてはあまり世論が盛り上がりなかつたのです。人権から原発を考える必要があります。原発は差別であると指摘させていただきました。

九五年の講演では南太平洋非核地帯条約について述べ、〇二年の講演では権力の「備え」とは憲法改悪を指していると指摘しました。この頃、アーミテージ氏の発言を利用して改憲を目指す流れがありました。この点で日米の思惑は一致しており、新戦略体制が表面化し、その秘密版に今後一〇年間にどのくらい減らすのかということにふれて、〇二年の段階で、現在ある七千発の戦略核弾頭を二二年までに二二〇〇から一七〇〇まで一方的に削減することを打ち出しています。現在、まさにこの範囲内に収まっています。

当時、秘密版の中に七つの核攻撃の想定があり、偶発事態ということでイラクによるイスラエル攻撃、北朝鮮による韓国攻撃、台湾をめぐる軍事対決などです。一〇年前とあまり事態は変化していないことが分かります。私の外交官時代に兵器用核分裂性物質生産禁止条約（カットオフ条約）を作ろうとしていましたが、私の周辺にはその話は全く出てきませんでした。

これからの私たちの方針として、若い人たちに佐々木偵子のような体験などを聴いてもらって平和の詩を作ってもらおうような取り組みを打ち出せばどうか、と考えています。

核兵器をめぐる情勢

さて、核兵器は弾頭と運搬手段の二つに大きく分けて考える必要があります。数については秘密の部分がありませんが、よく参考にされる米国の資料によると、昨年末現在、配備済みで使用可能な核兵器はロシアが一七四〇、米が一九五〇。まだ廃棄していないものを含めるとロシアが八五〇〇、米が七七〇〇等としています。数の上では八六年のピーク時で五万九千発以上、九二年には約五万発でした。現在、新START（戦略兵器削減）条約が一一年に発効して、約一七〇〇までに減少しています。米ロの間では戦略核弾頭を一五五〇発、ミサイルは八〇〇にするという合意ができています。オバマ政権高官にインタビューしたつい二週間前の新聞記事によると、米ロとも一千発程度まで削減させるという案を検討中であるということです。

次に北朝鮮です。ノドンやテポドン発射実験も何度か行われました。その度に非難決議が相次ぎ、中国の対応が注目されたりしました。特に安保理決議としてしばしば注目されるのが〇六年の一七一八号決議です。北朝鮮に対してこれ以上の核実験と弾道ミサイルの開発・発射の中止を要求し、NPT（核拡散防止条約）とIAEA（国際原子力機関）への復帰を要求する内容でした。今年二月の安保理決議二〇九四号では、制裁を追加し、金融取引の制限、貨物輸送の取り締まりでしたが、中国も賛成し、全会一致で採択されました。

宇宙条約第四条では、核兵器等を軌道に乗せない約束となっています。ミサイルは地球を回る軌道に乗せてはならないのです。

非核（兵器）地帯条約は、非核地帯をつくらうという運動の成果で、実際にはトラテロルコ条約など五つの条約があります。バンコク（東南アジア非核兵器地帯）条約、ペリンドラ（アフリカ非核兵器地帯）条約、セメイ（中央アジア非核兵器地帯）条約もそれにあたります。ただラロトンガ条約は「非核地帯」条約であり、他と異なり注意が必要です。兵器だけでなく船舶も含めて全ての核全体を禁止しているのです（但し締約国は航行の許可を自ら決定する自由をもつ）。

その他、南極条約もありますが、一九九八年にモングル国の非核兵器地位に関する法律が注目されます。これは一つの国が非核兵器の地位をもつことを認める国連総会決議を受けて制定されたものです。ニュージーランド非核地帯法の制定の際には、米国の肯定も否定もしないという政策との両立性が問題になりました。また原子力推進船舶の寄港について、新技術は安全基準には程遠く、ニュージーランドは一切必要としない、とされました。

北東アジアは構想あれど…

北東アジア非核地帯条約は本来、本日の主題となるべきものですが、現在のところ明るい見通しはありません。〇八年の民主党核軍縮促進議員連盟が提唱する案を示します。

ここでの基本的枠組みは、韓国・北朝鮮・日本（地域内国家）が非核地帯条約を締結するとともに、米・ロシア・中国（近隣核兵器国）は核攻撃をしないという意味での「消極的な安全保障」などを含む非核兵器地帯尊重の議定書に参加する方式（スリ

ー・プラス・スリー）であり、先に存在する世界の非核兵器地帯と併せ、世界中が非核地帯となることを希求するものであり、特徴として以下の三点を挙げています。

①地域内国家の国内にある他国の軍事施設（例…在日米軍基地）も対象とし、②日本の非核三原則（保有しない、製造しない、持ち込ませない）を北東アジア全体で実現し、③被爆体験の継承と核軍縮教育の義務を定める、です。

日本の役割は？

NPT再検討会議の第二回準備委員会の共同声明を敢えて提示します。どこが日本政府によって懸念されたのか示すためです。それによると「このような兵器が、いかなる状況の下においても二度と使用されないこと」です…、すべての国家は、核兵器を非合法化し、核兵器のない世界を実現するための努力を…という部分に日本政府が受け入れられない理由があるとしています。

日本はNPTに入る時に、「安保がなくなれば脱退する」という声明を出していますが、安保をなくして「核の傘」に依存しないことが北東アジアに非核地帯をつくることになる、と考えます。

平和や人権や民主主義と言いながら、核軍縮の国連決議に棄権や反対したりしているような政府ではなく、私たちは核兵器廃絶に向けて真摯に取り組み、私たちの願いを体現した政府を私たち市民自身がつくる、そういう大きな目標をもって、今後とも連帯して臨みたいものです。（文責 編集部）

非核の政府を求める会

第二八回総会を開催

全国の会第二八回総会は六月一日(土)東京で開催された。総会では小澤常任世話人（慈恵医大教授）が議案の提案を行い、補強報告を、藤田・笠井両常任世話人が行った。議論の上、二〇一三年活動方針議案と新役員が承認、選出された。また「国民への訴え」を採択して終了した。

核兵器廃絶をめぐる情勢

藤田常任世話人から、二〇一五年NPT再検討会議第二回準備委員会の概略について補強報告された。

この準備委員会は、四月二二日から五月三日までジュネーブで開催され、一八六カ国の締結国の内、米、ロ、英、仏、中の核兵器国含めて一〇六カ国が出席したと伝えられている。

この会議では、核兵器の廃絶に向けて三つのインシアチブがあった。

①一九九八年から行動している新アジェンダ連合は、今回も核兵器国が核軍備撤廃に向けて削減を大幅に加速するように要求し、具体的な段階的目標（ベンチマーク）のほか、時間枠（タイムライン）の設定を求めるなど、従来に増して厳しい課題を核兵器保有国に突きつけた。

②この間の「核兵器の非人道性」に関する動きで、新アジェンダ連合の一国でもある南アフリカが、「核兵器の人的影響に関する共同声明」を一般

討論で提案し、最終的に八〇カ国の賛同を集めて注目された。

日本は「いかなる状況下でも」の文言の削除要求が受け入れられず、この決議に賛同しなかった。

③アメリカは、一般討論でも個別課題の協議においても、核抑止論に基づいた核戦略に一貫して固執した。ロシアとの新START条約の締結と実行を自画自賛するとともに、今後、ロシアとの新たな核軍縮合意を迫りし続ける姿勢を示唆した。

また、アメリカは核兵器のない世界をめざしながらも、核兵器が存在する間は、核による抑止力は必要だとして、自らの核兵器の近代化に努める一方で、北朝鮮のミサイル・核開発、そしてイランの核開発に対して厳しく非難した。

日本とオーストラリアが共同で主導する「軍縮不拡散イニシアチブ（NPTDI）」の一〇カ国は、包括的核実験禁止条約の発効促進、非戦略核兵器の削減、核兵器の役割低減、軍縮不拡散教育などを、今回の準備委員会で提起した。これらは、オバマ政権の核政策を、側面からサポートするジュニア・パートナーの役割を果たしているように思える。

その他、今回の第二回準備委員会は、二〇一〇年のNPT再検討会議で合意された中東の非核地帯をめざすヘルシンキ会議が昨年開催されなかったことに関連して、二〇一三年の開催が模索されたが合意されず、エジプトが会議の途中でボイコットするなど、不穏な動きがあった。しかし、エジプトに同調したアラブ諸国はなかった。

結局、第二回準備委員会は、またもや「議長総括」は作成されず、作業文書として採択されたのみであ

る。今後、二〇一四年にニューヨークで行われる第三回準備委員会を経て、二〇一五年のNPT再検討会議を迎えることになる。

(原和人全国の会常任世話人報告から・文責編集部)
*会報一七八号花鳥風月を合わせてお読み下さい。

『はだしのゲン』

中沢啓治さんの思いを引き継いで

石田優子

二〇〇九年の九月、私たちは初めて中沢啓治さんのお話を記録させていただききました。被爆体験、戦争体験をした方々の高齢化が進む中、その証言を記録、保存する活動を続けていたその一環としての撮影でした。中沢さんの記憶は非常に鮮明でその証

言は大変貴重なものでした。中沢さんが子どもたちに漫画を通して戦争と原爆を伝えてきた、表現者としての在り方は特別ですし、戦後を力強く生き抜いたその人生に感銘を受け、大変魅力的な方だと感じました。撮影後スタッフと話し合い、是非この記録をより多くの方に見ていただきたいと考え、作品を映画化することになったのです。

「はだしのゲン」を通して戦争と原爆を知った

私は東京の出身で子供時代に『はだしのゲン』を通して初めて戦争や広島原爆を知った世代です。戦争を知らない、広島に特別な縁を持たない私が原爆の問題にきちんと向き合うことができるのだろうかとか大変悩みましたが、中沢さんは初めて監督をする当時三十一才の若者をおおらかに見守り「思い切りやりなさい、頑張れ」と何度も励まして下さいました。次の世代である私たちにメッセージを託そうとされていたのだということを、中沢さんが亡くなられた今、改めて深く受け止めています。

私たちの映画の撮影が終わるところから、中沢さんのガンと闘いが始まりました。中沢さんは車いすに乗り、酸素を吸入しながらも「力の続く限り、語ることで戦争、原爆と闘うんだ」と、亡くなる直前まで子どもたち、大人たちに向けて語り続けました。映画が完成した後、中沢さんの生きる姿勢から多くのことを教わりました。

中沢さんとお会い出来ないのはとても寂しいのですが、中沢さんの思いはこのドキュメンタリー映画や『はだしのゲン』の物語の中に生き続けていると信じています。私たち若い世代に出来ることはそ

の思いを引き継ぎ、次へ繋いで行くことです。

「はだしのゲン」四〇周年記念イベント

広島ではこの六月に漫画『はだしのゲン』四〇周年記念イベントが行われました。一九七三年の六月に漫画『はだしのゲン』の週刊少年ジャンプでの連載が始まりましたので「ゲン」が生まれてちょうど四〇年だということです。イベントでは若い学生の方々が中心となり、漫画を読み継ぎ、語り、広めていこうと新たなスタートが宣言されました。

この新たな年に石川反核医師の会の皆さまに上映を企画頂き、石川の皆さんに映画をご覧頂けることに心より御礼申し上げます。

◎本稿は石川反核医師の会とNPO法人はだしのゲンをひろめる会が六月九日、金沢市文化ホールで開いた「第四回核兵器廃絶国際行動デー」で上映したドキュメンタリー映画「はだしのゲンが見たヒロシマ」の石田優子監督から寄せられたメッセージです。

非核石川の会 リレーエッセイ

「天皇」について思うこと

池亀幸子

最近、安倍内閣の靖国神社問題や、維新の会の「慰安婦発言」などをめぐって、歴史認識や戦争責任の問題が、国際的にもこれまで以上に大きく問われる事態になっています。

漫画「はだしのゲン」40周年記念イベント

すべてのイベントは参加費無料

漫画「はだしのゲン」40年の歩みとこれから
■日時 6月1日 ①17:30~20:30 (17:00開場)
■場所 広島平和記念資料館地下メモリアルホール

漫画「はだしのゲン」が伝えたいこと
■日時 6月2日 ②13:00~14:00
■場所 旧日本銀行広島支店1階

漫画「はだしのゲン」40周年記念映画上映とトークイベント
■日時 6月4日 ③
18:30~21:00 (18:00開場)
■場所 広島平和記念資料館 会議室1

■主催
漫画「はだしのゲン」40周年記念イベント実行委員会
■協力
中沢ミサヨ
NPO法人 ANT Hiroshima
プロデュース トラウマ
映画「はだしのゲン」が見たヒロシマ(佐田の会)

■お問い合わせは
漫画「はだしのゲン」40周年記念イベント
実行委員会事務局
〒730-0012 広島市中区上八丁 8-14
安藤リッポウビル2階
株式会社ヒューマン・アクション
TEL 082-502-0428
FAX 082-502-6305
Mail gen@hiroshima@gmail.com

歴史認識の最大の問題は、日本がおこした戦争を侵略戦争として認めるかどうかということであり、その戦争の責任は誰が負うのかという問題です。

安倍首相は先の戦争を侵略戦争とは認めていませんし、「当時の国民の多くは軍部を支持していた」と言っています。こういう考え方がかなり広くあり、国民自身が戦争責任者を追及し、裁くことがなかったため、戦争責任の問題が曖昧になったといえます。

この曖昧さの根本を突き詰めていくと天皇制にあるのでないでしょうか。軍部も政治家も「最高責任者である天皇に従っただけ」と責任を逃れ、しかも天皇の責任は誰も追及できずその結果、戦争責任や戦犯の追及も曖昧になってしまったといえます。

◇ ◇ ◇

安倍首相は「日本を取り戻す」として、国民主権の憲法を、戦前の天皇を頂点とする立憲君主制の復活を基本とした憲法に変えようとしています。

今の憲法では、天皇は「象徴」として国政にかかわる権能を否定し、政治性のない国事行為のみ行うこととされていますが、自民党の憲法草案は天皇を日本国の元首とし、象徴天皇制そのものを変質させる内容になっています。

「今さらなにを時代錯誤な」と思う反面、これまでも憲法の規定を無視して国会開会式や海外要人との会談など、政治利用が当たり前のようになってきたように思います。

年号が天皇代替わりの度に変わるのでは不合理だしながらも元号が日常的に使われていまし、戦争の最高責任者である昭和天皇の誕生日も名目を変えて国民の祝日として残すなど、私たちは天皇を無原則的に受け入れてきたように思っています。

自民党憲法草案はそのところを見透かして、国民を甘くみているのかもしれない。

護憲や原発の新たな共同行動の広がりについて

板坂洋介

第二次安倍内閣で、にわか憲法九条改悪とセツトで第九六条改正が大きな争点になっています。

集団的自衛権行使への解釈改憲と明文改憲とが同時にからまりマスコミあげての改憲の雰囲気づくりのさなかの五月三日、九条の会・石川ネット主催の平和憲法施行六六周年記念石川県民集会が開催されました。県内各地の九条の会の方々六〇〇名の参加があり盛会となりました。

同時に、さる四月八日北尾強也、菅野昭夫、岩淵正明、飯森和彦弁護士四名の憲法改悪に反対する共同行動の呼びかけがされました。

呼応して石川県労働組合総連合と石川県平和運動センターに加盟する労働組合を中心とする共同が合意形成されました。両団体が事務局を構成し二回の実行委員会が持たれ、正式に「憲法改悪に反対する石川県実行委員会」として発足しました。

その内容は、来る七月の参議院選挙を前にした六月二五日(火)午後六時三〇分から金沢市文化ホールで「憲法改悪に反対する集会」を実行委員会主催で開催することで動き出しました。

この動向を受けて個人の手つなぎの九条の会・石川ネットも五月三〇日、第九〇回運営委員会での趣旨に賛同し、呼びかけ人・賛同人八〇〇名を超える方々や県下の九条の会へ「この集会」に参加を呼びかけることになりました。

この共同を契機とし、憲法九条・九六条改正反対の声が石川県民の多数派となるような取り組みが求められています。

同時に原発ゼロ・志賀原発廃炉を求める運動にも共同の兆しがあるようです。

このような動向を歓迎しつつ、更に思うことは、これらの共同に呼応すべく反核・非核の平和運動もオール石川を展望して共同の運動として再構築されるのが求められているのではないかとということです。

◇ ◇ ◇

今年も六月からこの夏に向けて石川県下をめぐる原水爆禁止国民平和行進が行われています。

来夏の夏の平和行進からでも遅くはありません。その接着剤的役割を非核の政府を求める石川の会や、この運動に参加している有識者個々人の意思と役割に大きな期待をされていると思います。

新たな共同の構築に汗をかくのは今ではないでしょうか。

詩人会議かなざわ「独標」より

一月の夏の花

中出弘子

昔の人の言うことに
詩を書けば風邪を引かぬ
南無命頂命

そんな先人の詩があつた

風の予防にも詩を書くか

胃の腑の悪阻を言葉に代えて

出してならべて はい おしまい

これがあなたの詩 ですか

出会った相手が眉を蹙めて嘆いても

気付かぬ半兵衛を決め込んで

厚顔無恥 たくさんの年の中に逃げ込めば

あとは忘れ上手になつている

青々と固い蕾をたくさん抱えて年越えの

夏の花 サンパチエンス

なにかの拍子に花が咲くかも知れないと

陽だまりを追っかける

汚れ除けに敷いた新聞に

読み手も自分もしあわせに元気になれる

そんな詩が書きたいと書いてある

あ——。

和定例会報より

宿題「苛立つ」焦れる

岡田一杜 選

前抜

いらだちで泣き叫ぶ街の公園

難民を増やして焦らすTPP

アベノミクスで国民焦らす安倍政権

佳作

戦する国に焦れてずり落ちる

トップセールス焦りは中国封じ込め

歴史認識逆風までもで焦りだし

人位

飼い犬の行儀の悪さにいらだつて

地位

苛立つてオバマは無人機アロをする

天位

憲法を守れの民意に焦れている

軸

苛立つてTPPで国を売る

《非核平和・行事予定》

六月二五日(火)一八時半…憲法改悪に反対する集会・

集会後アピール行進・金沢市文化ホール・主催…憲

法に反対する石川県実行委員会

七月四日(休)～二日(日)…参議院議員選挙

七月六日(出)一八時半…TPPで日本医療はどうなる

～韓国医師が語る韓米FTAが韓国医療保険制

度に与えた影響～講師ウ・ソッキョン(医師、健康

権実現のための保険医療団体連合会政策室長)、ピ
ョン・ヒェジン(同団体事務局)・金沢都ホテル七
階・主催…石川県保険医協会

七月七日(日)一四時…石川県保険医協会第七回原発・

いのち・みらい講演会「メディアが報道しない真実

―原発震災後の行政と『脱被ばく』の課題」講師荒

木田岳福島大学行政政策学類准教授・近江町交流プ

ラザ四階

七月二八日(日)一〇時～一二時半…二〇一三年反核・

平和おりづる市民のつどい・金沢市卯辰山「平和の

子ら像」前広場・主催…つどい実行委員会

七月二九日(月)一八時半…原発なくす石川県連絡会代

表者・呼びかけ人会議・ドキュメンタリーテレビ「珠

洲原発をとめた人たちの記録」鑑賞・その後打ち合

わせ会・近江町交流プラザ四階

七月二九日(月)一三時四〇分…小松爆音訴訟公判・金

沢地裁

八月二日(出)～九日(金)…原水爆禁止世界大会「E」広島&

長崎(県代表団は七日～九日長崎大会に参加)

八月四日(日)一〇時…第五回石川医療・介護研究集

会・体験型学習講演会「よりそう介護と道具の関係

―生活づくりとしてのシーティング」講師…光野有

次シーティングエンジニア/でく工房・県青少年総

合研修センター・主催…同実行委員会

八月五日(月)～一六日(休)…「原爆と人間展」石川県庁

一九階展望ロビー・主催…反核・平和おりづる市民の

つどい実行委員会

八月一〇日(出)…治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟

県本部総会・金沢勤労者プラザ

八月二四日(出)～二五日(日)…日本母親大会・記念講演

「憲法の息づく国に」伊藤真弁護士／伊藤塾塾長・東京&千葉

・九月二日(出)一〜一七時：二〇一三年いしかわピース9フェスティバル・野々市市フオルテ・参加費一五〇〇円・主催：同実行委員会

・九月三日(月)一四時半：金沢市民劇場例会・木山事務所「ミュージカルはだしのゲン」金沢歌劇座

・九月二四(月)一九時：金沢市民劇場例会・同右・野々市フオルテ

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班 中山清子



《編集室より》

◎二〇一三年原水爆禁止国民平和大行進の県内通し行進者として六月一五日、富山県から(富山―広島コース)の横断幕を引き継いだ。あいにくの雨模様だったが、石川県参加者五〇人が富山県境から越中坂(昼食)―俱利伽羅塾―中津幡駅―津幡町役場まで四時間余かけて行進した。役場では土曜午後にも係わらず総務部長はじめ一人もの職員が待機されており、町長と議長の平和行進ペナント、平和市長会議の署名簿、ペットボトル募金(一二本)を手渡しいただいた。平和行進に寄せられた津幡町長の激励メッセージを紹介する。

「本日は富山県から行進を引き継がれ、本町役場までの行進お疲れさまでした。無事に広島までつながれますよう期待しております。津幡町では、平成四年三月議会におきまして『核兵器廃絶平和都市宣言』を可決するとともに、毎年八月には『原爆と人間展』を開催し、世界平和の実現を願っているところでございます。原水爆禁止世界大会と国民平和大行進のご成功を心よりお祈り申し上げます。」

このような県内自治体からの応援も励みとし、六月二四日、福井県に平和行進の横断幕を引き継ぐまでガンバります。(か)

◎アーサー・ビナードさんの講演は本当に素晴らしかった。参加された皆さんは、言葉を自分のものに取り戻すことによって、自身本来のチカラが

回復し、さらに気力・活力が充実・増進するのを感じたのではなからうか。

相手の宣伝や攪乱に惑わされることなく、本質を見抜く眼力をもって臨みたい。本紙次号でその要旨を掲載する予定です。お楽しみに。(ま)

◎地域で九条の会の活動をしています。その会の代表の一人が六月二二日一〇一歳を迎えられました。ささやかなお花をもってお祝いのご挨拶に。お声もお身体も全身から若さ溢れており「九条をしつかり頑張りましょう！」の言葉が心に響いています。

本紙前号で会費とニュース代のご入金をお願いをしましたところ、翌日から今日まで毎日のようにご入金をいただき、厚くお礼を申し上げます。会報を中心に、生活の場から、自治体と一緒に、をモットーに運動をすすめていきます。引き続きご入金の受付を行っておりますのでよろしくお願いたします。(平)

◎今号の編集会議は、原水爆禁止国民平和大行進の富山県からの引き継ぎに先立つ時刻での開催となり、金沢駅近くのレストランで早朝に行われました。その後、報告のあった津幡町長からの平和行進への激励メッセージも拝見しました。

まさに「生活の場から自治体と一緒に」は『非核・いしかわ』の変わらぬスタンスです(こ)